瀧口修造生誕120周年記念シンポジウム　**瀧口修造研究会特別例会 パピエプリエ01：**

蝶番のタブローをつくること（曲尺や書物などのように・・・・）

本年は**瀧口修造**生誕120周年にあたります。それを記念し、**瀧口資料**を分有する慶應義塾大学アート・センターと富山県美術館は共同企画を行います。**前者**は**シンポジウム**、後者は**展覧会**です。

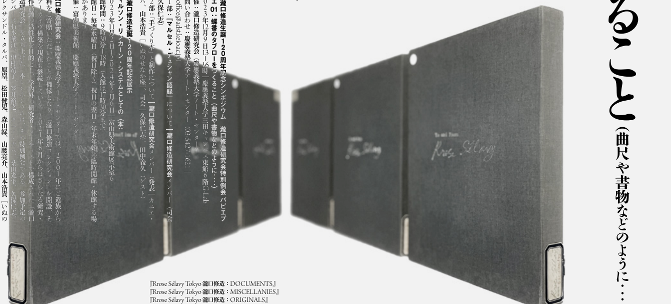
不可能の部屋。どんな意味でか、自分に属しているはずの部屋にどうしても辿りつけぬ夢をよく見る。／自室――自分に属していると思っている部屋――とはいったい何であろう、と考える。――瀧口修造「寸秒夢、あとさき」（『現代詩手帖』10月臨時増刊瀧口修造、1974年）

部屋じゅうを鏡にして、それを動けるようにした一室をつくる。そして鏡の効果を撮影する・・・・――『マルセル・デュシャン語録』（1968年）

詩人、展覧会のオーガナイザー、美術批評家、造形作家と多様な活動を繰り広げた**瀧口修造**（1903–1979）は、通称「**手づくり本**（handmade brochure）」と呼ばれる不可思議な本を制作しています。それらは出版社や印刷所のプロセスを経ていない、瀧口自身の手仕事による本であり、雑誌の切り抜き、銀紙、ラベル・シール、手書きのメモ等、いわゆる断片の寄せ集めによって構成され、完成されているようにも、未完成であるようにも見える本です。〈本〉を「**ひとつの行為を内蔵してしまったもの**」（「アララットの船あるいは空の蜜へ小さな透視の日々」1972年）として捉え、「**永遠に綴じられず、丁づけされない本**」（「白紙の周辺」1963年）を志向していた瀧口にとって、本が仮設的な状態にあることはとても重要であったと考えられます。

本シンポジウムでは、書店を中心に流通する一般的な本と「手づくり本」とを対極的存在として捉え、その間で揺れ動く存在として**瀧口**の『**マルセル・デュシャン語録**』（1968年）を位置づけます。そして、この本を通して瀧口がどのように制作を思考していたのか、さらには「本」とは何かについて考えます。

第1部では**瀧口修造研究会**メンバーによる『**マルセル・デュシャン語録**』の分析を行います。第2部では本を単なる情報の容器としてだけではなく、言語とともに発明されるべき造形物としても捉えた制作を行っている作家を中心に**瀧口修造研究会**メンバーによるディスカッションを行います。



●瀧口修造生誕120周年記念シンポジウム　瀧口修造研究会特別例会 パピエプリエ01：蝶番のタブローをつくること（曲尺や書物などのように・・・・）
2023年12月9日13–16時｜慶應義塾大学三田キャンパス東館6階G-Lab
主催：瀧口修造研究会（慶應義塾大学アート・センター）
お問い合わせ：慶應義塾大学アート・センター（03-5427-1621｜ac-office@adst.keio.ac.jp）
第1部：『**マルセル・デュシャン語録**』について｜**瀧口修造研究会**メンバー（司会｜久保仁志）
第2部：「手づくり本」と制作について｜**瀧口修造研究会**メンバー（発表｜カニエ・ナハ、山本浩貴［いぬのせなか座］、司会｜久保仁志）、田中義久（ゲスト）

●瀧口修造生誕120周年記念展示
ウィルソン・リンカーン・システムとしての〈本〉
2023年11月2日–2024年2月6日｜富山県美術館展示室6
開館時間：9時30分–18時（入館は17時30分まで）
休館日：毎週水曜日（祝日除く）祝日の翌日・年末年始※臨時開館・休館する場合があります
主催：富山県美術館、慶應義塾大学アート・センター

***瀧口修造研究会**：慶應義塾大学アート・センターでは、2001年にご遺族から資料をご寄贈いただいたことが機縁となり、「瀧口修造コレクション」を開設、そのアーカイヴ構築を現在も継続している。2021年6月からはさらなる研究・創作活動の活性化を目的とし、学内外の研究者・アーティストで構成された「瀧口修造研究会」を立ち上げた。本シンポジウムは、その特別例会である。参加予定のメンバー：石木華江、伊村靖子、笠井裕之、カニエ・ナハ、桑田光平、久保仁志、アレクサンドル・タルバ、**原塁**、**松田健児**、**森山緑**、**山腰亮介**、**山本浩貴**［いぬのせなか座］。

****パピエプリエ**：〈パピエプリエ（papier plié）〉とは、**瀧口**が「**手づくり本**」に準ずるものに**付けた名称**である。**直訳**すると「**折り畳まれた紙**」だが、**折紙を指す場合もある**。『シュルレアリスム**簡約辞典**』（1938）の「**美しい死骸**」の**項目**に、**次のような説明**がある。「いく**人**かの**人間**に、**一句乃至**はひとつのデッサンをかかせることでなりたつ、パピエプリエの**遊び**。」（アンドレ・ブルトン、ポール・エリュアール編『シュルレアリスム**簡約辞典**』江原順訳、**現代思潮社**、1971年、6頁。**原文**を**参照**しつつ一**部訳語**を**変更**した。）。**遊び**の**最中**、**前**の**人**が**書**いた／**描**いたものは**折り畳**まれて**隠**され、**次**の**人**は**見**ることができない。

『Rrose Sélavy Tokyo 瀧口修造：DOCUMENTS』
『Rrose Sélavy Tokyo 瀧口修造：MISCELLANIES』
『Rrose Sélavy Tokyo 瀧口修造：ORIGINALS』
（すべてpost-1968）：『マルセル・デュシャン**語録**』の**箱**を**利用**した**瀧口**の「**手づくり本**」